

## 事例番号 132 灯明で伝統を守るまち(福岡県福岡市博多区)

### 1. 背景

福岡市は福岡部と博多部の双子都市として発展してきたが、戦後の復興の中で博多部から福岡部へ商業の核である博多駅や問屋街、デパート等が流出したことによって博多部の空洞化が進んだ。1982年、「このままじゃ博多がのうなる」というある老人のつぶやきから、住民主体の「まちづくり勝手連」が立ち上がり、博多部のまちづくりが始まった。



福岡市地図 (資料:(財)福岡観光コンベンションビューローホームページ)

### 2. 目標

1997年に地元で制定された「博多部まちづくり憲章」と1998年に福岡市により政策決定された「都心居住博多部振興プラン」とがまちづくりの羅針盤になっている。「博多部まちづくり憲章」では、下記のように「定住環境」「商業」「交流」「自治」「文化」がキーワードになっている。(資料:「NPO博多まちづくり」)。

### 〔博多部まちづくり憲章〕

- 第1条 みんなが楽しく暮らし続けられる、定住環境が豊かな博多にしよう。
- 第2条 創意と工夫にあふれ進取の気性と先端情報に富んだ、商業が元気な博多にしよう。
- 第3条 老若男女が自由闊達に働き学び遊ぶ、誰もが交流する開かれた博多にしよう。
- 第4条 自ら律し自ら治める、自治を尊ぶ、自治を誇れる博多にしよう。
- 第5条 山笠をはじめ伝統と歴史的遺産を継承し発展させる、文化あふれる博多にしよう。

一方、「都心居住・博多振興プラン」の目標は「地域と行政が協働した居住を柱とするコミュニティの再生」となっている。「博多部まちづくり憲章」が掲げる「定住環境」と共通する視点であり、地区の空洞化に対する危機意識の強さを感じる。同プランでは、子育て世帯の居住誘導の受け皿となるファミリー向け住宅を1998年～2012年までの間に約1,300戸整備するという目標を掲げている。



博多区地図 (資料:(財)福岡観光コンベンションビューローホームページ)

### 3. 取り組みの体制

「博多部まちづくり協議会」が中心組織である。1992～1994年にかけて、博多部の御供所地区、大浜地区、冷泉地区、奈良屋地区の4地区それぞれに「まちづくり協議会」が自治連合会の中の一組織としてできたが、それら4つの「まちづくり協議会」の連合体として1994年4月に設立されたのが「博多部まちづくり協議会」である。同協議会は任意法人であるが、人材面、資金面の充実を図るため2001年3月に事務局を独立させて「特定非営利活動法人 NPO 博多まちづくり」とした。「NPO 博多まちづくり」の会員は20人(2003年10月時点)である。会員は以前は商店の人が多かったが、個人商店が成り立たない地域が増加したことから現在はサラリーマンが中心になっている。

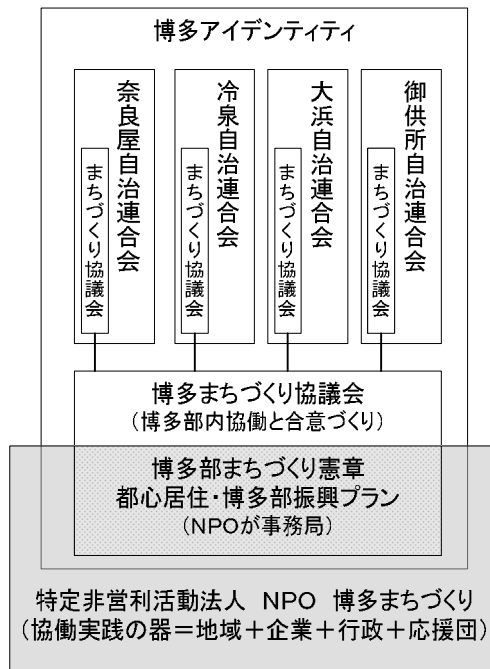
### 4. 具体策

#### (1) 組織の運営状況

「博多部まちづくり協議会」は博多部4地区の「まちづくり協議会」の連合体であり、各地区の「まちづくり協議会」はそれぞれの地区の自治協議会(2003年までは「自治連合会」)の中の一組織である(老人、子ども育成、福祉等のセクションと同様)。

「博多部まちづくり協議会」の事務局である「NPO 博多まちづくり」の専任のスタッフは1人、その他のスタッフは7人である。同会の活動費は、会費(法人会員年1万円、個人会員年3千円)のほか、社会実験等に関する福岡市、都市再生機構、国土交通省等からの収入によりまかなっている。その額は年度により大きく変動する。

「博多部まちづくり協議会」・「NPO 博多まちづくり」と自治連合会の関係



(資料) 「NPO 博多まちづくり」資料

## (2) 活動内容

### ① 博多灯明ウォッチング

1994年に「博多部まちづくり協議会」の結成記念イベントとして「博多灯明ウォッチング」を開催し、以後現在まで毎年開催している(開催日は基本的に10月の第一土曜日)。

灯明ウォッチングのアイデアの源は「千灯明」という博多の地祭りにある。「千灯明」は夏の博多祇園山笠の祭りの後、秋口に「山笠で頑張ったね」と子どもの健やかな成長を願って行われる伝統あるお祭りで、大竹を割った中に砂を敷き、その上に貝殻を置き、菜種油を入れ、こよりを芯にしたものに子どもが火をつけて、大人がうちわで消す。つけては消しつけては消しを繰り返すという祭りであった。千灯明は定住者の減少や商業の衰退に伴う地域の空洞化で継続することが難しくなったが、灯明ウォッチングはその伝統を絶やさず、発展継承させることを目的として開催されている。地元の伝統的なお祭りが多くの芸術家の手によって現代風にアレンジされているのが特徴である。

灯明は和紙を巻いた紙コップや一般に市販されている紙袋の中に砂を入れて蝋燭を灯すだけであるが、静かで深い感動を共有できるものである。また、公共空間を飾ることにより人々が地域を再発見するきっかけにもなる。

「博多部まちづくり協議会」の発想から生まれた手のかからないイベントであるが、地域外の人、アーティスト、子どものサークル活動に関わっている人、お年寄りグループ、行政、企業など、多様な人々が参加できる点が特徴であり、そのような様々な人々の合意を得ながらイベントを手づくりで行うという点にまちづくりにつながる協働作業の効果がある。2003年からはビジターズインダストリー(集客産業)として福岡市の観光課などが予算をつけている。

灯明ウォッチングを開催するりぼんシティオ那珂川地区は、2004年度、国土交通省の都市景観大賞において「美しいまちなみ優秀賞」を受賞した。美野島地区では、以前の夏祭りは地区の小学校で行っており、参加人数は約200人にとどまっていたが、2002年から新しくできた800戸の団地前の河畔公園に開催場所を移し灯明ウォッチングを開催したところ、約3千人の参加者を集めることができた。

灯明ウォッチングの行政の窓口は主に博多区役所である。イベントは役所と協働で行っていることから、川に浮かべる際の川の管理者との調整や許認可等は行政内部で行っている。

灯明ウォッチングは全国各地に広まっており、このイベントを通じて住民主体のまちづくりを誘導したいという自治体から委託を受けて「NPO 博多まちづくり」がサポートを行っている。

### ② 美野島まちづくりサポート

美野島地区の工場跡地に造成された約800戸の団地について、地域住民の地区評価に関する調査を「NPO 博多まちづくり」が福岡市建築局より受託し、2001年頃から同地区でまちづくりサポートを行うようになった。2003年には当該地区の全世帯、全事業者を対象にアンケート調査等を実施した。また、新住民となった約800世帯の交流を目的として、2002年からは毎年灯明ウォッチングを開催している。

「NPO 博多まちづくり」は行政や大学、企業、個人的なネットワーク等、多様な主体との「協働まちづくり」を活動目的の一つに掲げているが、美野島地区のまちづくりサポートには美野島まちづく

り協議会、都市再生機構、福岡市都市整備局、九州大学等様々な主体が参画しており、「NPO 博多まちづくり」がコーディネーター的役割を務めている。

博多灯明ウォッチング (資料:博多部まちづくり協議会ホームページ)





### ③ 国土交通省社会実験

「NPO 博多まちづくり」が国土交通省の 2003 年度社会実験に応募した「道路空間のコミュニティインフラ化 in 博多」が採択された。定住人口の高齢化や流出等で商店街が衰退していた博多部の再活性化を図るために、道路を単なる通過・通行の公共空間ではなく、生活・商業・コミュニティのための空間としてとらえ直し、数々のイベント等を通じて都心部ににぎわいを取り戻す方策を探るとともに、地域住民の意識改革を促すことが提案の趣旨であった。実験実施項目は以下の 5 点である。

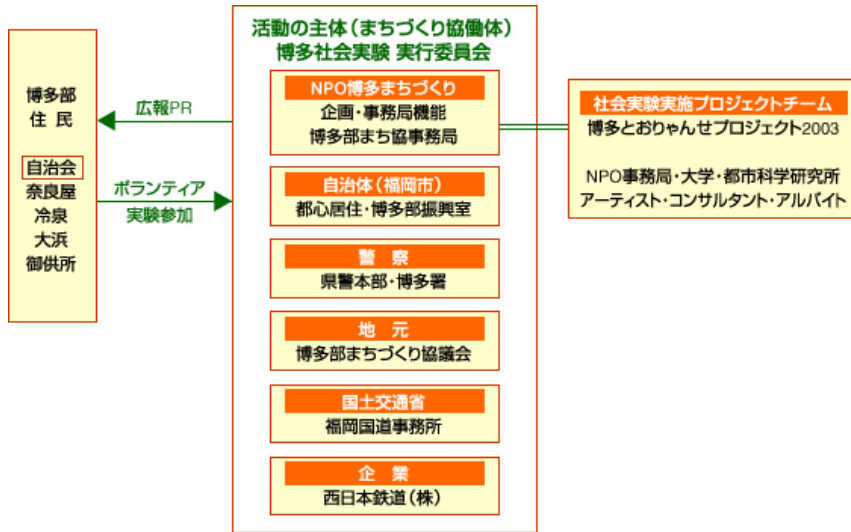
- 1) 博多部 4 地区をつなぐ約 2 キロの既存道路(博多回廊)を一方通行・一車線化する道路空間の組み替え
- 2) 駐車・駐輪スペース、サイクルレーン、歩道コミュニティの創出
- 3) バス停や地下鉄駅、市営駐車場などとレンタルサイクル基地(博多リバレイン)との連携
- 4) バリアフリーマップやサイクルマップの作成
- 5) 歩行者天国交流イベント、オープンカフェ、庇の延長、バンコ設置、バス停のアート化、便所貸出表示、花いっぱい活動など生活文化の道路や公園への表現・展開

実験は 2003 年 9 月 26 日から 10 月 5 日の 10 日間行った。また、「社会実験」とは別に、「博多灯明ウォッチング」と「博多川灯明」を合わせて「博多 とうりゃんせプロジェクト 2003」として一体的に実施し、相乗効果を得られるようにした。

社会実験位置図 (資料:国土交通省道路局)



社会実験の推進体制 (資料:国土交通省道路局)



社会実験概要図 (資料:国土交通省道路局)

道路空間のコミュニティインフラ化

**レンタサイクル**  
歩くには広い博多のまちを楽しく気持ちよく利用するためのシステム

**便所貸出シール**  
お年寄りや小さい子供のために利用しやすいまちのツールの一つ

**庄の歩道延長**  
日本独特の「庄の文化」を復活、その下を交流スペースに

**オープンカフェ**  
アートギャラリーと連携して雰囲気のいいオープンカフェを設置

**駐輪駐車スペース**  
減少した車線に設け、誰でも利用しやすい、安全できれいな街並みに

**博多案内看板**  
知らない人でも一目で分かる、博多の情報満載マップを設置

**一方通行実験風景イメージ**

**バンク設置**  
バンクを並べ、お年寄りの休憩スペース、子供たちの遊び場を作る

**博多マップ**  
博多案内看板とあわせて、持ち運びできる情報満載マップ

**花いっぱい運動**  
移動できる花壇など、博多全体で花いっぱい運動を盛り上げる

**博多灯明・歩行者天国・交流市場**  
歩行者に優しい空間が、イベント時に利用しやすい空間となる。一方通行区間は歩行者天国にし、交流市場

**コミュニティバス**  
待ち時間を楽しく過ごせるよう、また地域情報発信の場としてのバス停



#### ④ まちづくりマップ

博多市内の地元企業から協賛金を集め、山笠のコースと企業広告とが掲載されている「まちづくりマップ」を自主事業として毎年製作している。山笠を見に来る観光者用に博多周辺で無料配布している。

#### ⑤ その他

各地からの依頼で講演活動を頻繁に行っている。

### 5. 特徴的手法

「灯明ウォッチング」をはじめとする手づくりのまちづくり活動を地道に積み重ねることで、全国から注目されるほどの大きな効果をあげてきている。「NPO 博多まちづくり」は全国の「灯明まちづくりサミット」の開催を目指している。

かつて地域資源であった博多の地祭りを、誰もが手軽に参加できる祭りとして再生し、イベントとして実施することは、人々が地域を再発見する機会を提供することにもなっている。

灯明ウォッチングは、北海道の帯広から鹿児島県の川内まで全国各地に広がった。お祭りの全国展開は、「よさこい」のように、本場のお祭りを見た人が自分の町でもやりたいということで広まるパターンが多い。「灯明ウォッチング」が広まった理由は、見ればやり方がわかるという簡易なものであること、人手のいる祭りではあるが練習の必要がなくその場にいる人が手伝えること等にあると考えられる。

### 6. 課題

組織に安定した収益基盤がないことが大きな課題である。

(参考・引用文献)

博多部まちづくり協議会」ホームページ